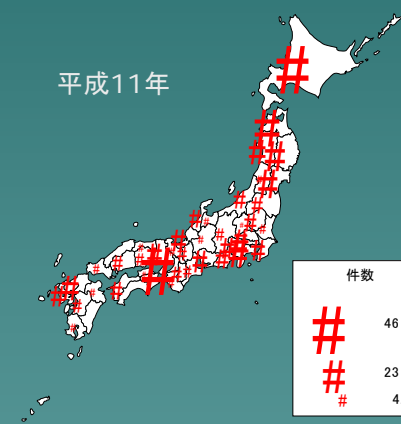
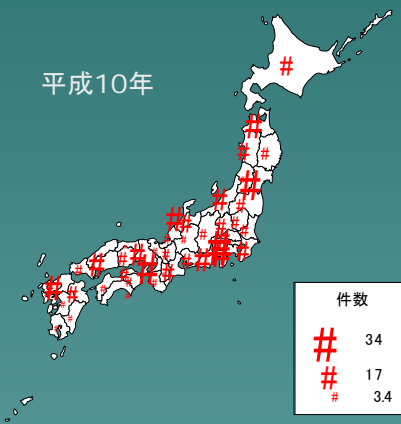
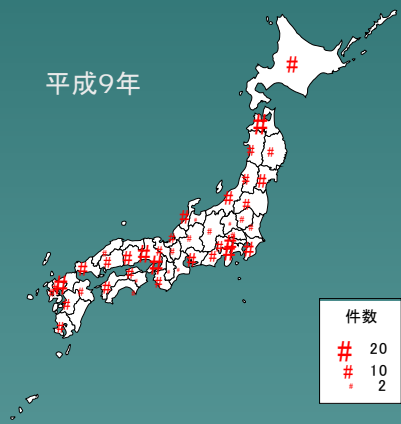
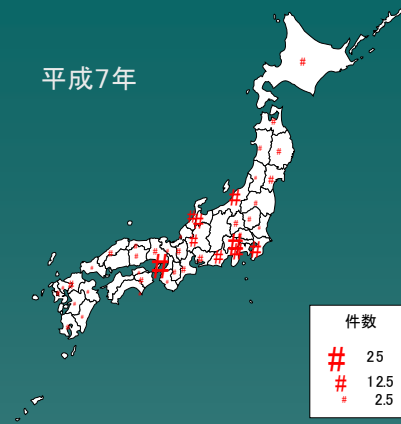
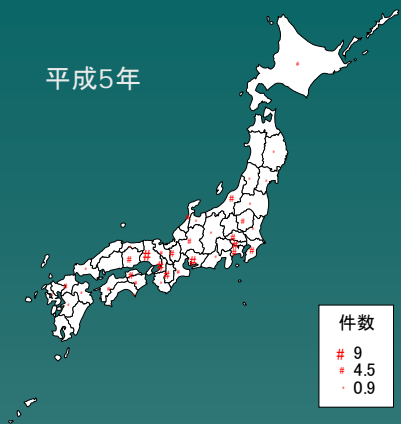


なぜ東北・北海道に発生が多い？ 沖縄にほとんどない？

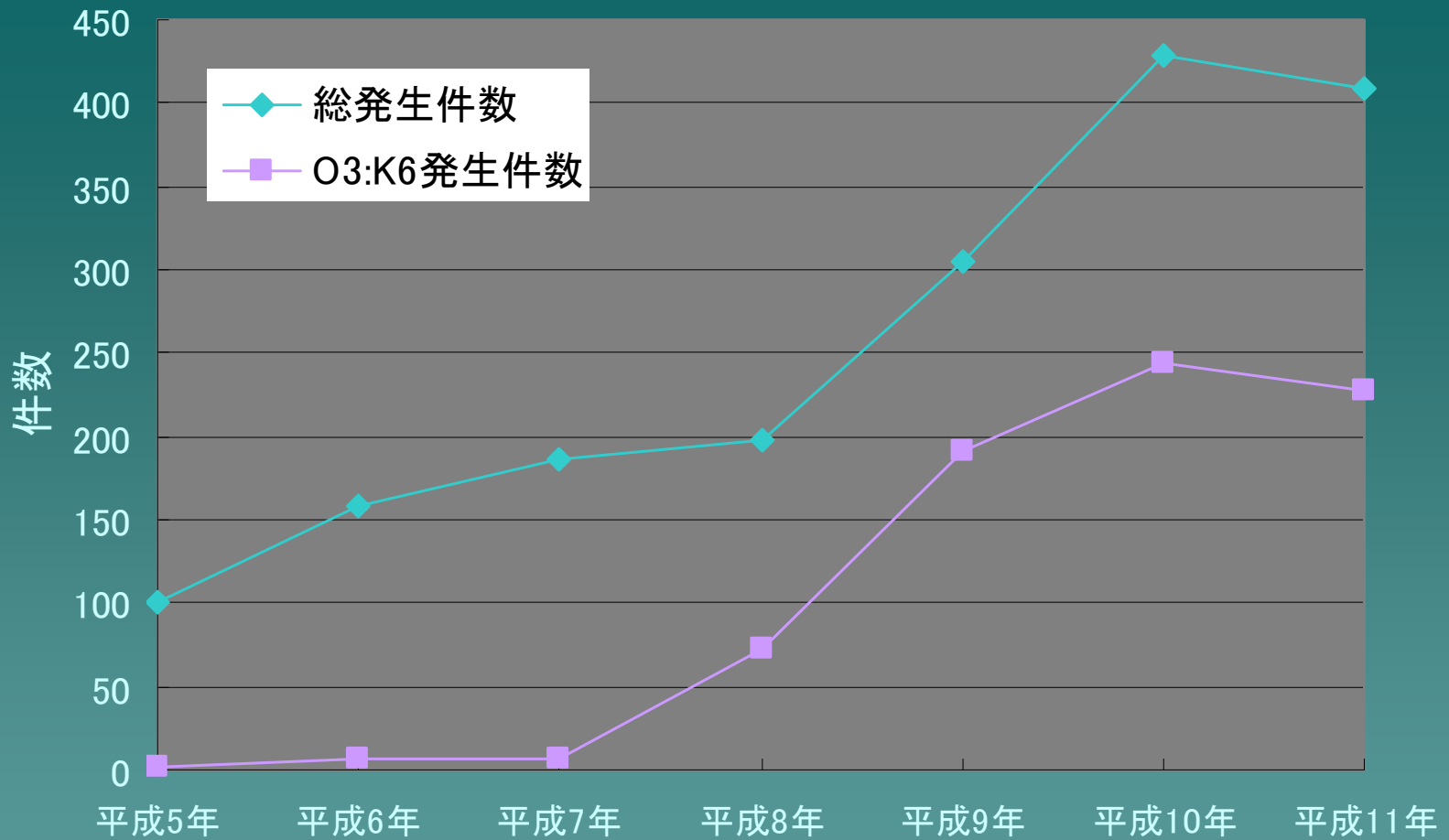
—血清型別O3:K6の全国拡散状況、
沖縄レポート等について—

調査内容

- ◆ 全国でのVp食中毒発生状況(平成5～11年)
- ◆ 三重県沿岸の海水中Vp菌量、塩分濃度及び水温(平成8年6月～平成9年5月)
- ◆ 県内主要河川河口部におけるイシマキガイのVp保有状況(平成9年8月)

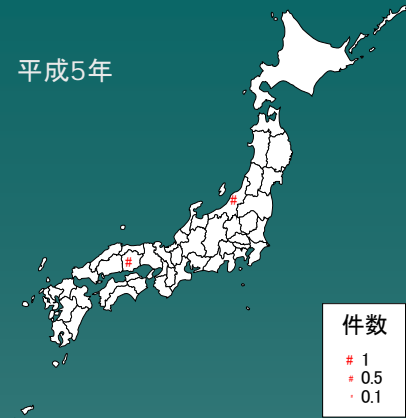


Vp食中毒発生件数の推移

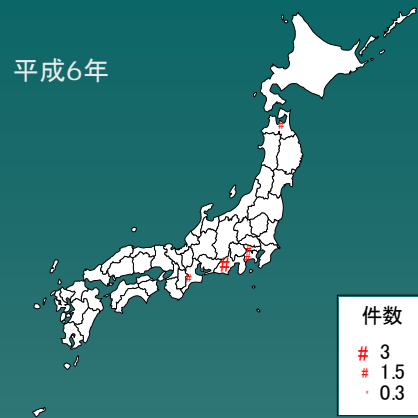


Vp食中毒発生件数の推移

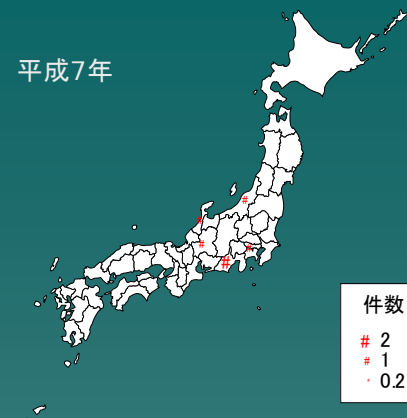
平成5年



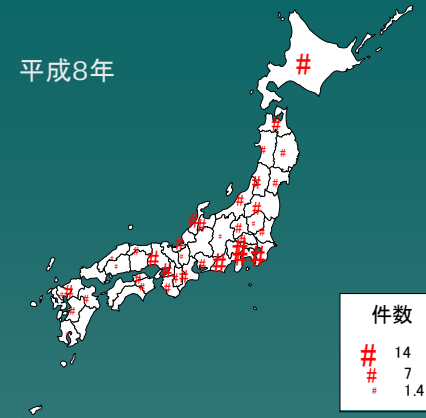
平成6年



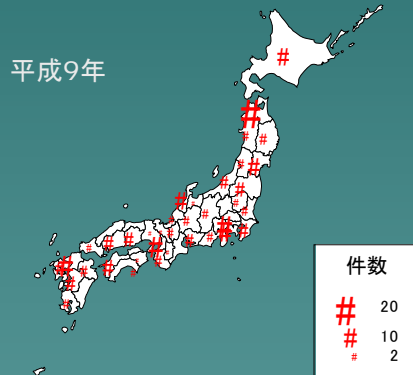
平成7年



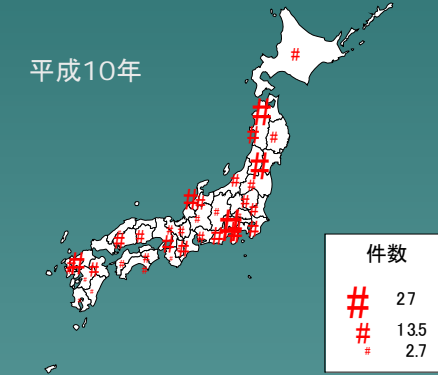
平成8年



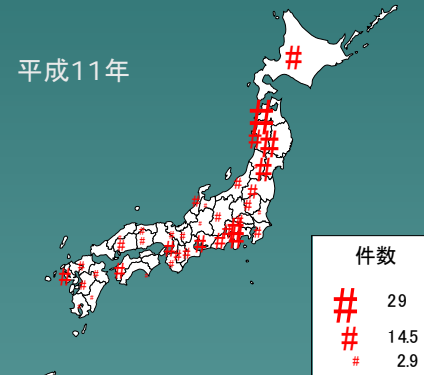
平成9年



平成10年

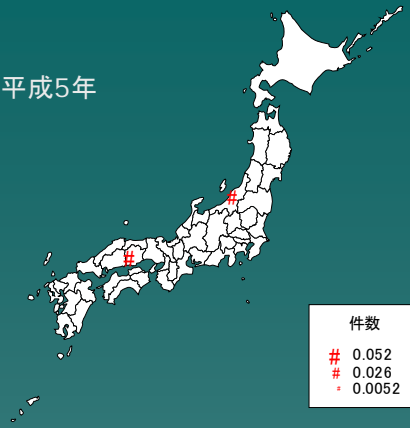


平成11年

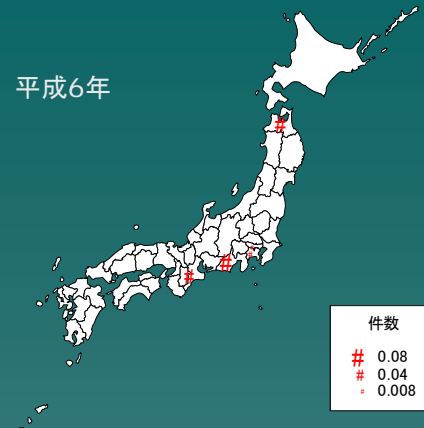


03: K6発生件数の推移

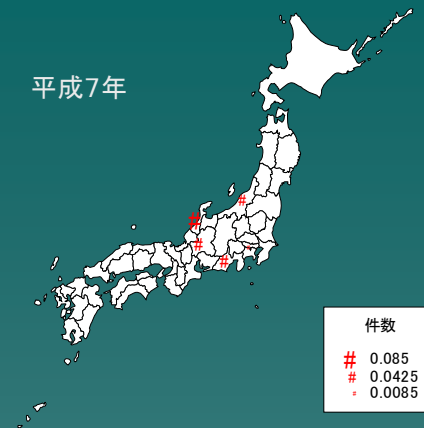
平成5年



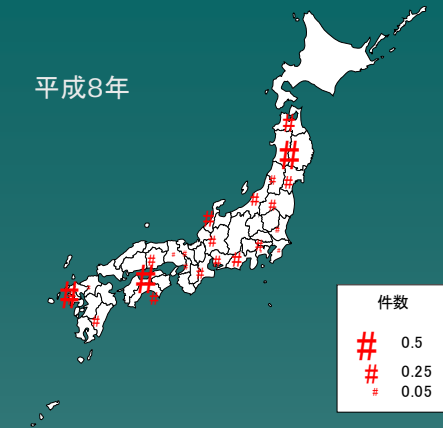
平成6年



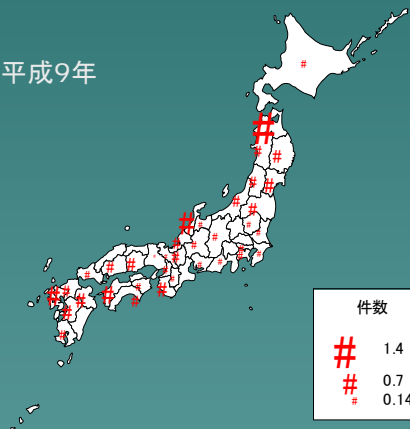
平成7年



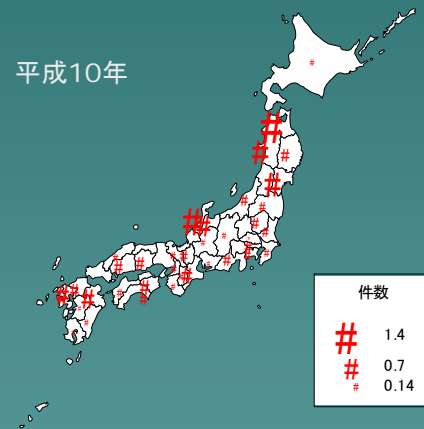
平成8年



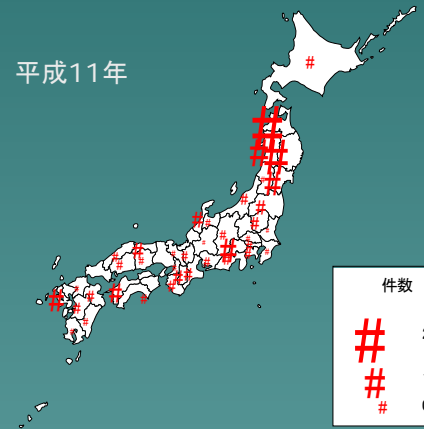
平成9年



平成10年



平成11年



人口10万あたりのO3:K6発生件数

血清型O3:K6による食中毒発生

- ◆ 東北、北陸地方で多く発生
- ◆ 地元でとれた魚介類での発生

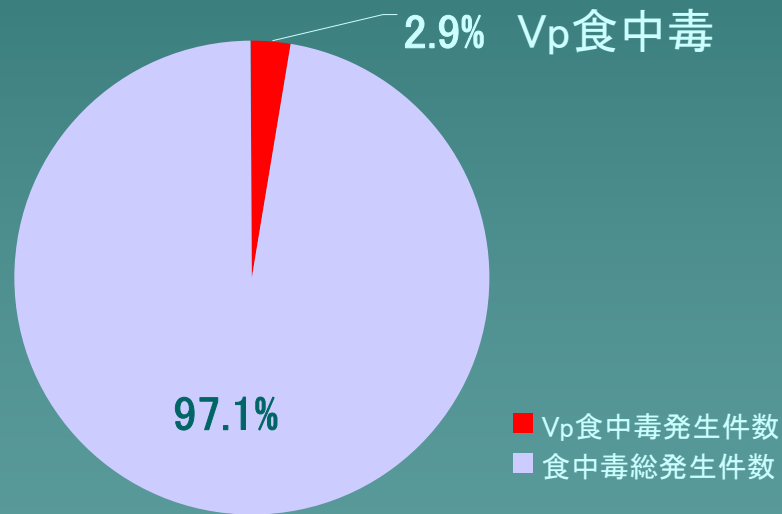


- ◆ 生食用魚介類によるもの
 - 沿岸海水の使用等による汚染
- ◆ ボイル加工した魚介類での発生
 - 加工後の二次汚染

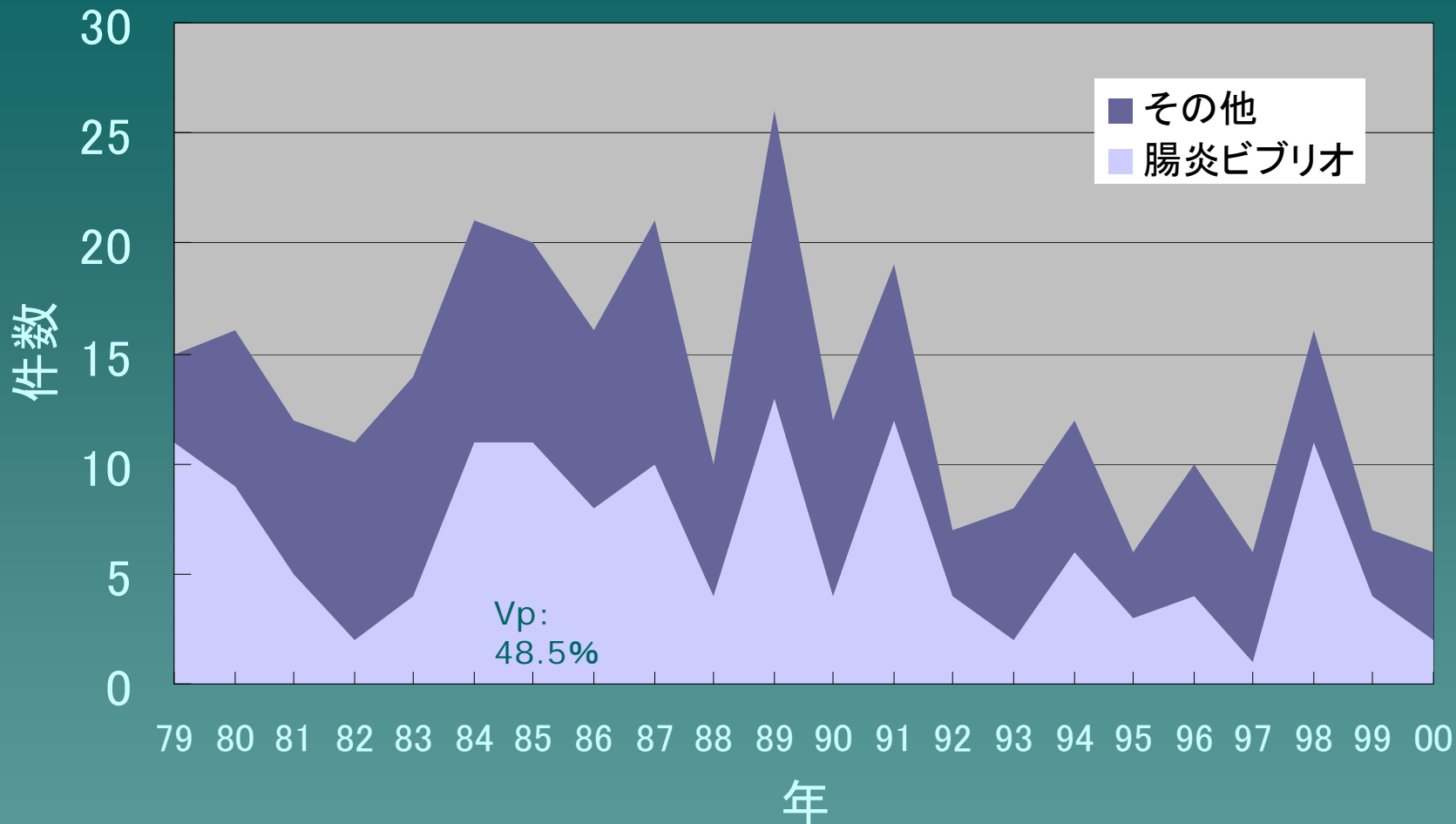
沖縄県におけるVp食中毒発生件数

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
食中毒総発生件数	8	30	15	49	41	23	41
Vp食中毒発生件数	0	1	1	1	0	1	2
O3K6によるもの	0	0	0	0	0	1	1

単位：件



H5～11年の間でVp食中毒の占める割合



三重県のVp食中毒発生割合



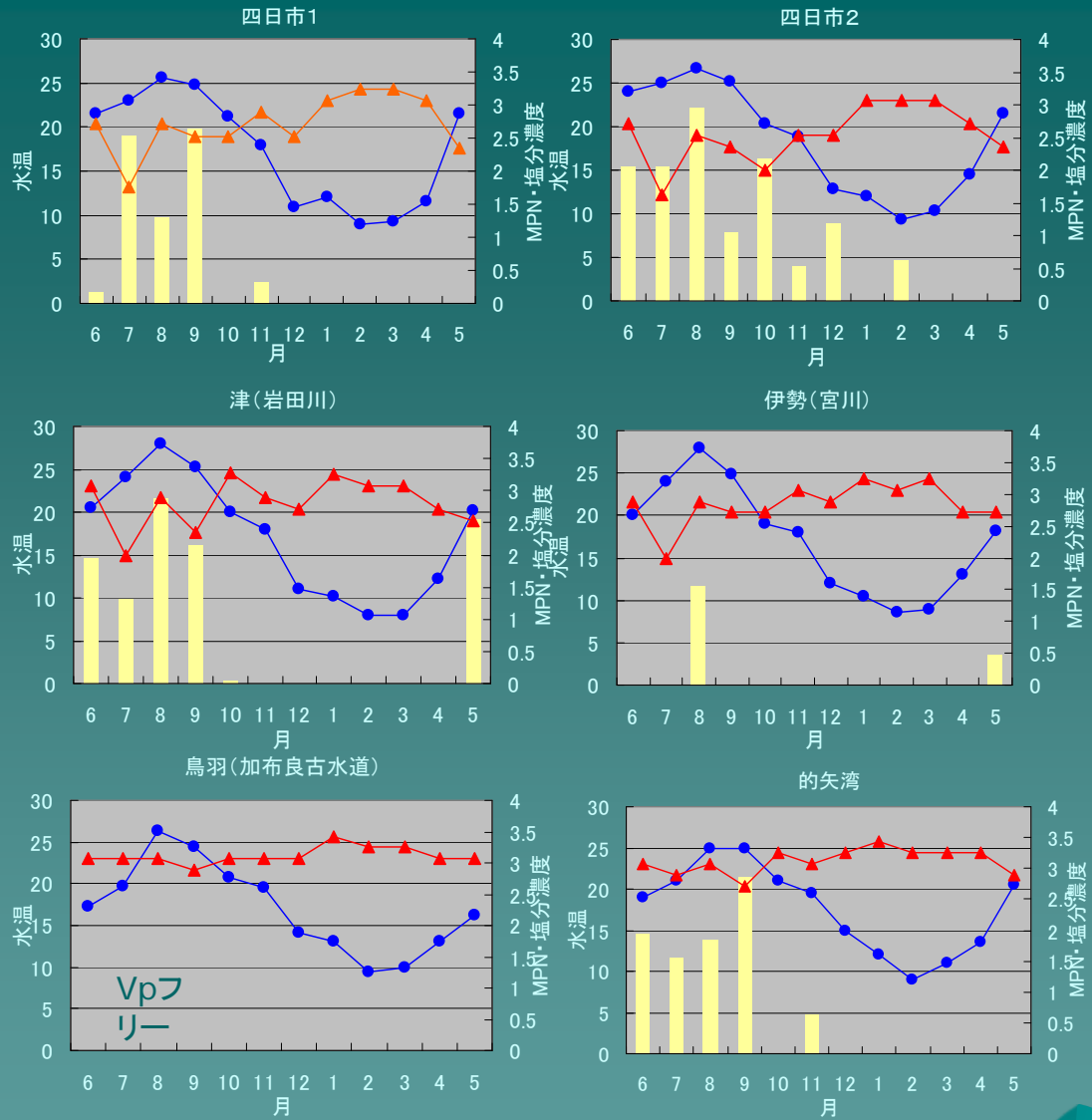
伊勢湾

志摩半島

太平洋

紀州地方

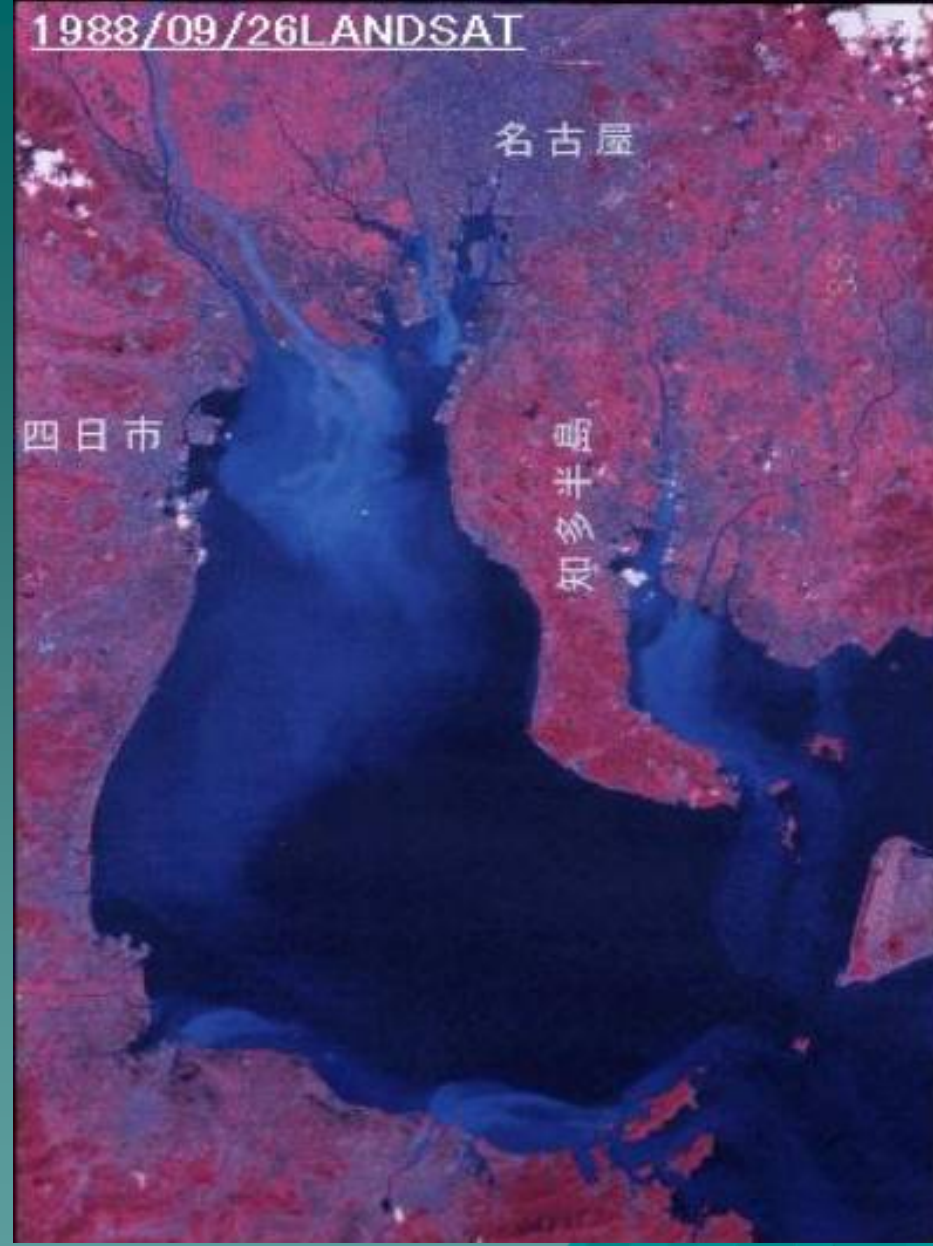
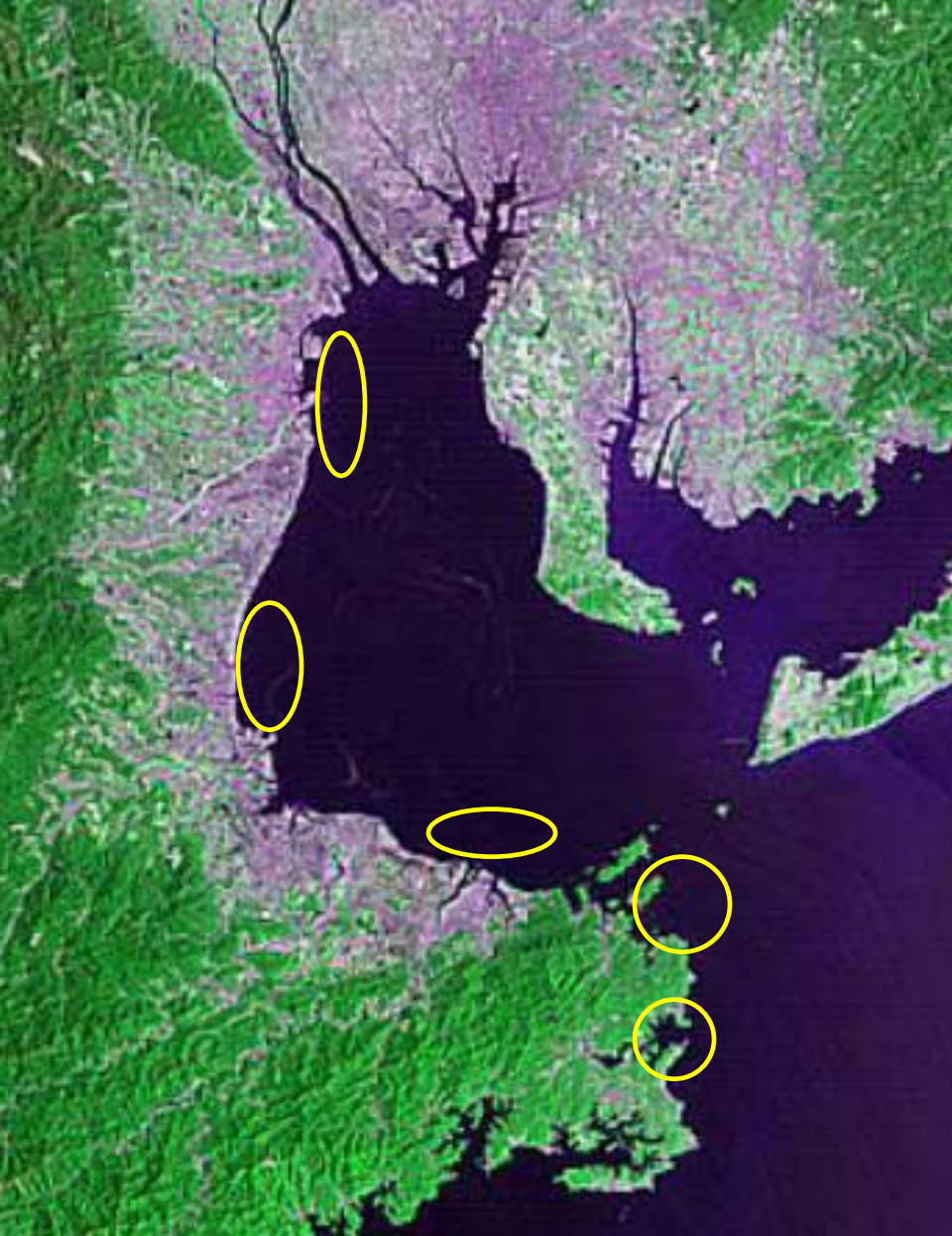




伊勢湾沿岸部の海水中Vp菌量

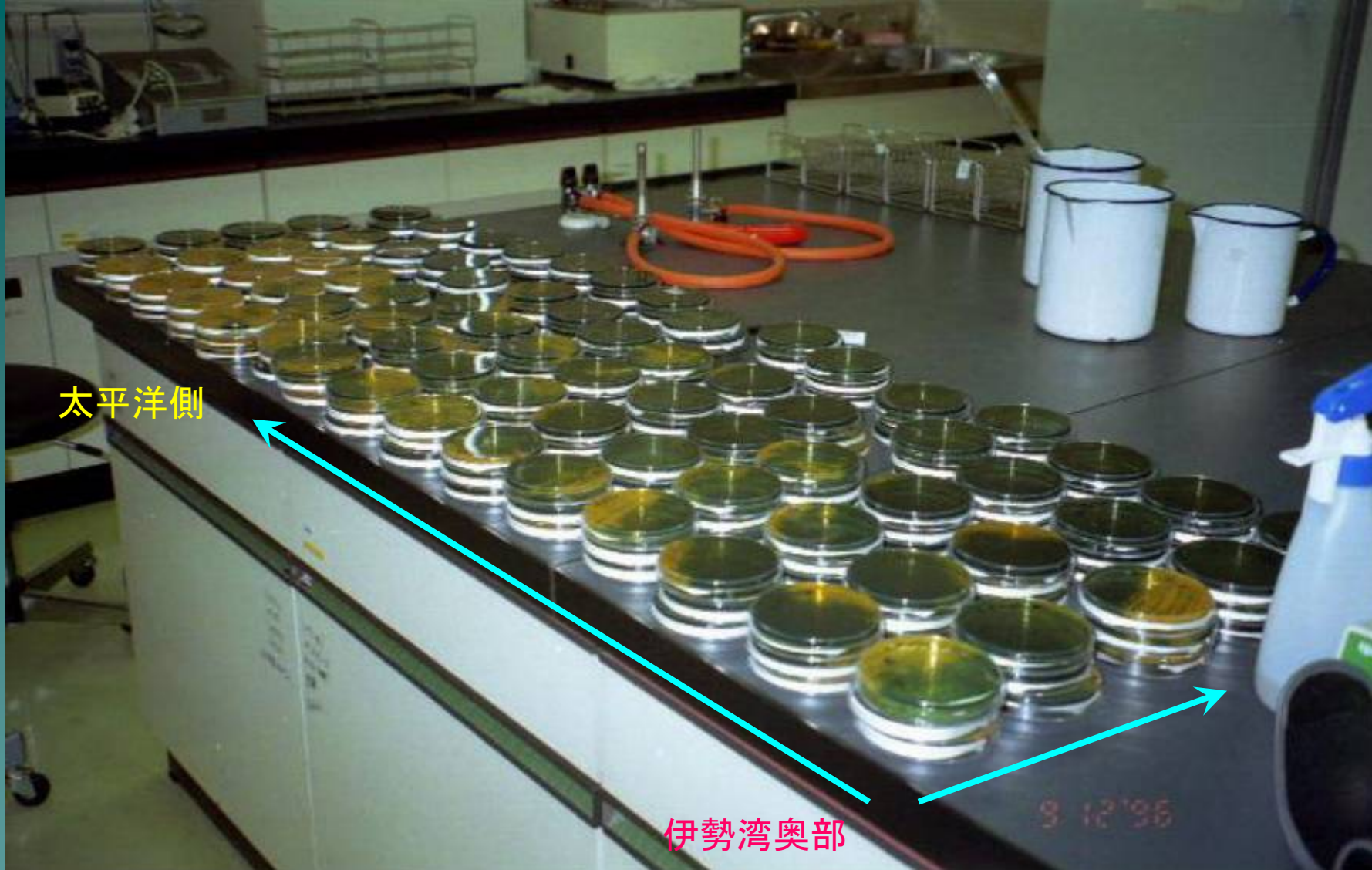


河川の流入があり塩分濃度に変化のある海域からVpは分離され、常に黒潮の影響を受けている海域では検出しなかった。(1996/6~1997/5)



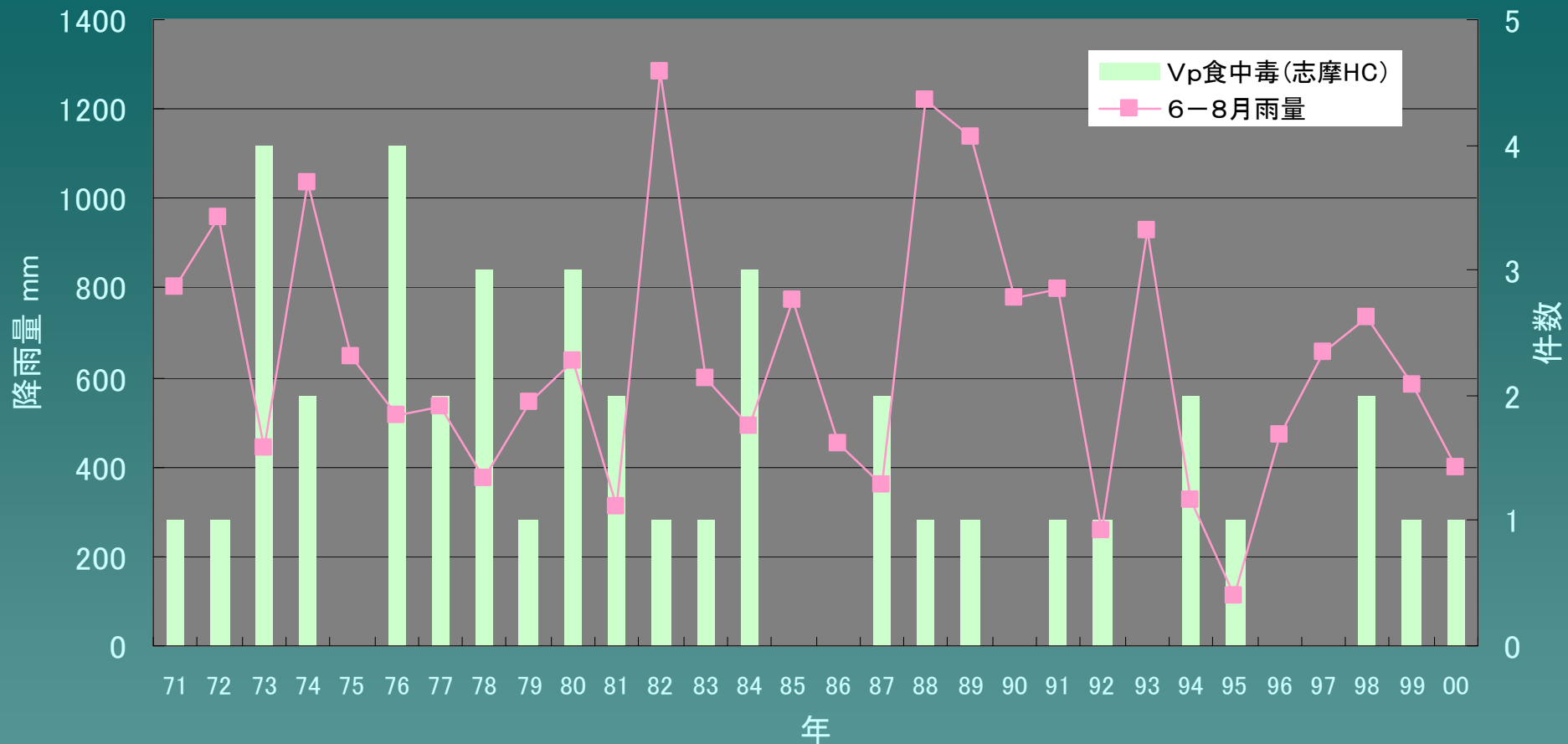
伊勢湾への河川水の流入

※ 伊勢湾に流入する河川水が白く見えている



海水検査の一場面(1996年9月)

河川流入で塩分濃度に変化のある伊勢湾奥部から伊勢湾口(太平洋)へ行くにつれ、TCBS寒天培地は緑色から黄変化(白糖分解菌)していく。



鳥羽志摩地方の6～8月の降雨量とVp食中毒発生件数

志摩保健所管内のVp食中毒発生件数は、6～8月の夏季雨量が少ない年に多く発生する傾向がみられる。

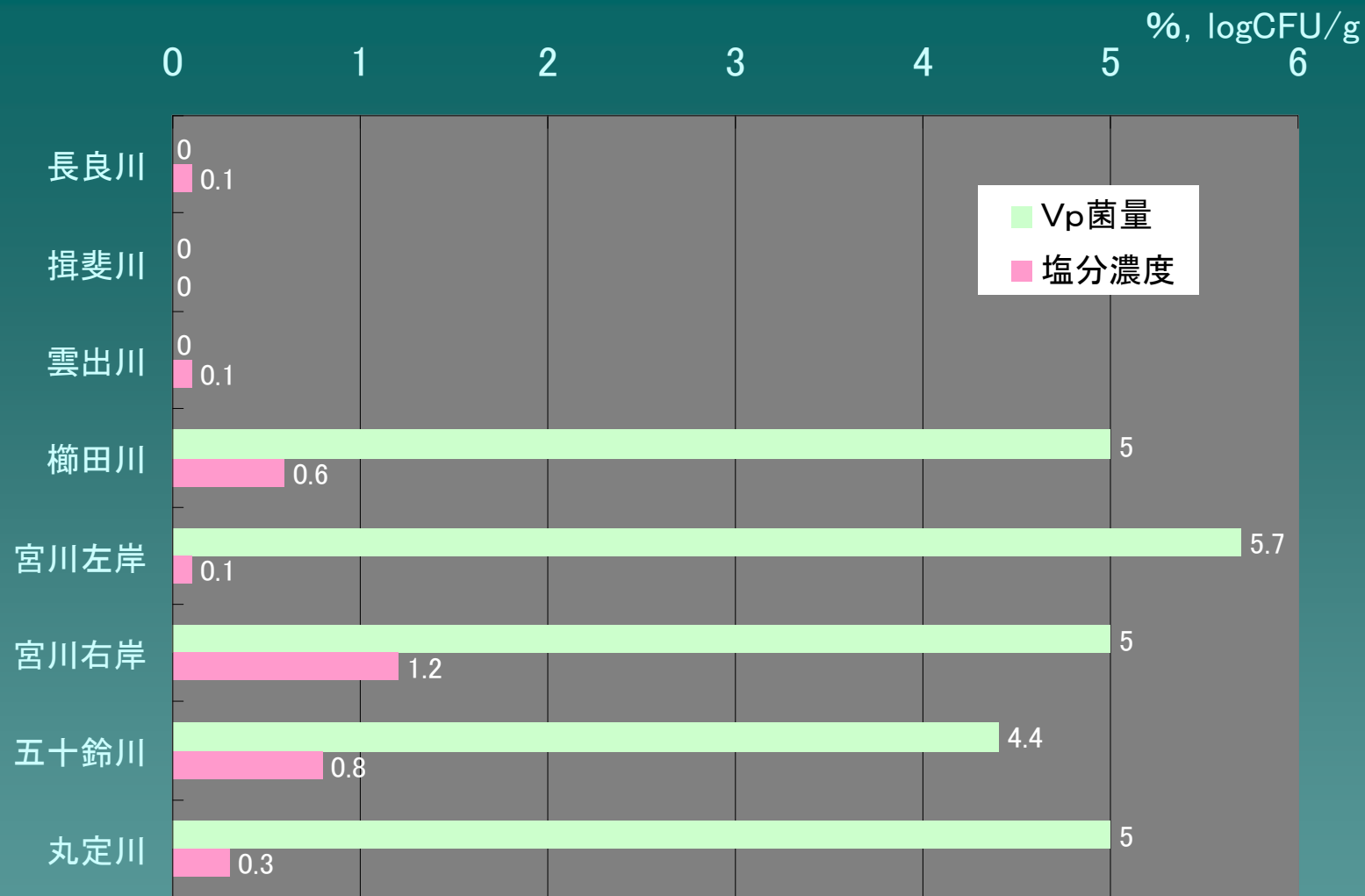
イシマキガイって？



※ 巻貝の一種

※ 河川河口部の汽水域から
上流の淡水部にかけて生息





イシマキガイの河川別Vp菌量



河川河口部(宮川)



干潮時でも海水
が残っている



河口部の様子(宮川)

三重県

- ◆ Vp食中毒は伊勢湾沿いから志摩地方で発生
→外洋に面する紀州地域では殆ど発生せず
- ◆ Vp食中毒発生は、降雨後の広範囲な汽水域の形成が起きたときに見られる
- ◆ 河川水の影響を受ける汽水域でVp検出
- ◆ 汽水域の形成される河口部のイシマキガイからVp検出

沖縄県

- ◆ 周囲が常に黒潮で洗われている
- ◆ 海へ流入する大きな河川がない
- ◆ 大雨の後でも汽水域が形成されにくい



- ◆ 周辺海域の塩分濃度は年間を通じほぼ一定



日本海側

- ◆ 黒潮の影響を受けにくい
- ◆ 汐の干満が少ない
- ◆ 海への大きな河川の流入がある



- ◆ 沿岸海水の塩分濃度が低い状態が長時間続く
- ◆ 広範囲な汽水域が長時間存在

まとめ

- ◆ 沿岸部での汽水域形成はVpの生息に深く関わっている
- ◆ Vp食中毒発生と汽水域のVp生息には強い関連性がある

- ◆ 汽水域ではVpが高率に検出される
- ||
- ◆ 耐熱毒素産生性Vpも検出されやすい？